



## 東京部会(第 23 回)

日 時: 2009 年 7 月 31 日(金)16:30~18:30

場 所: 日本大学経済学部 3 号館(図書館)4 階会議室

参加者: 篠原(同志社大学)、中川(日本大学)、新井(都立西高)、高橋(桜修館中等学校)、中沖(清水書院)、  
鈴木(日本経済教育センター) [順不同]

### 【内容要旨】

1. 篠原代表より、今夏のネットワークが主催、共催する「夏休み経済教室」についての準備の現状、6 月以降の一ヶ月間のネットワークの活動についての報告がされた。
2. 篠原代表より、ネットワークが企画している入試問題検討プロジェクトに関連して、いくつかの入試問題の検討を行った報告がされた。そのなかでは、金融や財政に関して暗記的な用語記入を要求する問題や、出題者の専門領域を趣味的に出しているケースなどの悪問が紹介された。一方、学習指導要領を越えるが、問題を読みながら思考を深めながら生徒の理解を確認するような感度の良い問題もあり、大学によって、また同じ大学でも出題者による差が大きい現状があることが報告された。なお、入試問題プロジェクトは、東京、関西で分析の担当者が決まり、9 月の一次集約を目指して作業が開始されている。
3. 中川会員より、高等学校の「政治・経済」の教科書に出てくる市場機能を、教科書を通して理解できるかどうかの検討報告がされた。これは、高校の「政治・経済」の当該部分を大学 1、2 年生に読ませて、講義を行い、生徒の理解度・納得度を講義前と講義後の二回アンケート集計して、比較するという内容の報告である。結果は、講義後の納得度のスコアは大幅に上昇。高校教科書では、言葉だけ、結論しか書かれていないため、結論に導くための理論を丁寧にフォローすることが市場理解には必要であることが浮かび上がった。講義の内容は、夏の「経済教育セミナー」の中で紹介される予定である。
4. 新井より、中川会員作成の「公共財ゲーム」を高校の教室で実施した報告がされた。3 年生対象の授業で、新井の勤務校で 7 月上旬に実施。生徒のフリーライダー発生の要因と、政府の役割に対する生徒の理解が深まった結果が紹介された。ゲームの実際と生徒の反応は、ネットワークが協力する、札幌で行われる「北海道高等学校政治経済研究会」の大会で紹介、報告する予定である。

(文責 新井明)